

“置かれた場所”で咲くために・・・

～関東学生リーグでの敗戦！？からの学び～

坂根和志

1990年筑波大学卒

今も懐かしい筑波大学の第3体育館にて、現役時代、平日は夜10時前までの自主練習を終え、よく院生の先輩や自然学類の先輩などとの晩御飯のため、ひたすら自転車を漕ぎ、帰路を急ぐ・・・、そんな大学4年間だったと思います。

特に個人戦で全国国公立の表彰台に上がることも無かった私ですが、6人の団体メンバーが必要される関東学生リーグでは、当時主将であった先輩などの進言により、1年秋初戦の駒澤大学戦2番に大抜擢！？、1番でのスーパーエース対決に勝利していただいた勢いも手伝って、デビュー戦勝利という幸運に恵まれることになりました。

その後、2年春リーグの対青山学院大学戦3-3ラストでの奇跡的な勝利、3年秋リーグの3部との入れ替え戦勝利以外は、関東リーグ通算12敗？（たぶん）、あとは、頼れる後輩たちに、筑波大学体育会卓球部男子の未来を託し、学生卓球でのラケットを置くこととなりました。

それでも、楽しかった関東甲信越大会や全国国公立大会での団体優勝、さらに2年夏の名古屋インカレでは、対明治大学戦のラストに名前を置いていただくなど、私のように高校時代に全国の実績のない者でも出場機会を与えていただき、今でも大変感謝しています。

時は流れ、その後の筑波大学の総合力のアップにより、この夏の2024インカレにて、創部94年目での女子団体初優勝は、歴代の監督さん以下スタッフ選手、全国でご活躍の多くの筑波大学関係者の皆様もたいへん喜んでおられると思います。

できれば、私が生きているうちに、インカレ団体アベック優勝、あるいは、筑波大学同士の全日学シングルス決勝をみる事ができれば、と（笑）

私の人生において、いろんな思い出のある大学4年間でしたが、私の大学での卓球経験は、“置かれた場所”、すなわち、卓球であれば団体のオーダーやその他の役割、仕事であれば、配属された部署などで、力を発揮するためにいかに努力すべきかなど、いろんな学びを与えてくれたと思います。

今は、大好きな卓球が教えてくれた多くの教訓と、当時、鍛えることができた心身の貯金を元に、残された人生の中で、少しでも何か恩返しができるならば、と（笑）

日々、頑張っています。